

MCS 税理士法人立川事務所通信

1月号 VOL・125

MCS 税理士法人立川事務所

〒190-0023

立川市柴崎町 3-11-4 東京ロジテック千代田ビル 4 階

電話：042-595-7671 FAX：042-528-6949

<http://www.mcs-office.jp> mail.info@mcs-office.jp

相続専用 HP：<http://www.souzokushien110.com/>



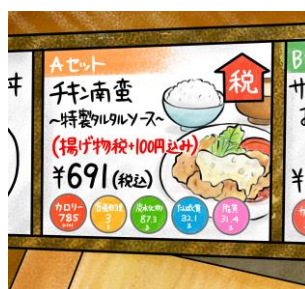
えんまん
遺言相続支援センター

明けましておめでとうございます。今年
は自動車の自動ブレーキ義務化が始まる
かもしれません。いずれは自動運転にな
っていき流れでしょうか。便利は不便の
始まりだといわれますが、便利に慣れて
しまった後のことを想像すると、便利に
あらがって不便を楽しめるくらいの余裕
を持ちたいと思う、令和2年の新春です。

【健康経営の一環として「揚げ物税」】

人手不足が叫ばれる中、できるだけ働きやすい環境を整えて社員を少しでも長く健康に勤められるようにと、工夫を凝らした福利厚生に力を入れる企業も多くなりました。インターネット関連サービス大手のヤフー株式会社では、社員の健康増進に役立てるために独自の税を導入したそうです。その名も「揚げ物税」。これは社員食堂で提供する揚げ物料理の一部について100円値上げするというものです。

一方、魚料理については「お魚還元」として150円値下げしました。例えば、チキン南蛮定食は591円から691円に、サバのみそ煮定食は693円から543円に。ヤフーの社内調査によれば、社員が昼食で脂質を取りすぎる傾向にあるという実態が判明し、それが多く含まれる揚げ物料理を控え、よりヘルシーな魚料理を食べてもらおうという社員の生活の改善を狙うことを目的にこの制度を設けました。ヤフーでは以前から「社員の健康は生産性の向上につながる」という「健康経営」に取り組んでおり「社員の健康は企業の繁栄にもつながる」という発想をもっていたそうです。値上げするだけでなく健康に良いメニューをお値打ちに提供することにより、社員の体と懐の負担を軽くして元気に長く働くことができる仕組み。このようなユニークな税制度は今後、多くの企業で導入されていくかもしれませんね。



【お寿司屋さんが提供する評判の「バーガー」とは？】

くら寿司の意外なメニュー「フィッシュバーガー」が評判です。鮮度が抜群でも寿司ネタには使用できない魚や部位を生かしたパテを、米粉と酢を使った「シャリバンズ」で挟むと濃厚なてりやきソースと玉ねぎの天ぷらが魚の風味を引き立てます。水産資源の有効活用を目的とするプロジェクトで開発した、化学調味料や人工保存料は一切無添加の体にやさしい国産天然魚100%のハンバーガーです。企業として食品ロスや食の安全に真剣に向き合い、具現化した一品です。



今月の教えてキーワード：【国外財産調書制度】

富裕層が海外に有する資産について税務当局が年に一度、調書の提出を義務付けている制度。国外送金等調書法に基づき2014年に導入された。対象となるのはその年の12月31日時点で国外に5000万円を超える財産（預金・不動産など）を持つ日本国内居住者で、当局は入手した情報をもとに申告漏れを見付けて追徴課税を行う。税率が低い租税回避地（タックスヘイブン）などを使った税逃れを防ぐことが目的のひとつ。

【見えないたすきに込めた思い】

お正月の恒例行事のひとつといえば駅伝でしょう。箱根駅伝を見ないと新年になった気がしないという声をよく聞きます。箱根駅伝誕生のきっかけを作ったのは「マラソンの父」と呼ばれた日本人初のオリンピック・マラソンランナーの金栗四三（かなくりしそ）氏です。1912年、金栗氏はオリンピックのストックホルム大会に参加するも結果は惨敗。日本の陸上競技の遅れを痛感し「日本のマラソンが強くなるためには長距離やマラソン選手を養成することだ」と考え、選手を一度に養成するために思いついたのが「リレー種目」だったそうです。東京高等師範学校の野口源三郎氏、明治大学の学生ランナーの沢田英一氏とともに「将来はアメリカ大陸横断を」という壮大な計画を立て、まず選手の選抜をするために関東の多くの大学と専門学校などに参加を呼びかけて対抗駅伝を行いました。コースは東京から箱根までの往復。1校10人がたすきをつなぎ、2日間に分けて完走を目指す。これが箱根駅伝の原型となり、翌年の1920年2月14日に記念すべき第1回東京箱根間往復大学駅伝競走が開催されたそうです。参加した大学は明治、早稲田、慶應義塾、東京高等師範（現筑波大学）の4校。第1回の復路と総合優勝は東京高等師範学校。往路を制したのは7時間30分36秒の明治大学でした。結局、金栗氏たちのアメリカ大陸横断計画は実現しなかったそうです。しかし、マラソン普及に心血を注いだその思いは、箱根駅伝という形で今に受け継がれているのだと思います。金栗氏の情熱。母校の



名誉。仲間への感謝。自分へのエール。金栗氏が手渡したたすきに込めた思いは計り知れません。「今までは商売をマラソンに例えていたけど、これからは駅伝でいきたい」と言った知人がいます。30代で起業して、商売という長い道のりを一人、黙々と走り続けてきた彼は、70歳を目前にした今、これからは次の世代に何を残していけるかを考えて商売をしたいそうです。何をやるかより、どうやるか。思いを込めた見えないたすきを手渡すために残りの人生をかけるそうです。

夢を見るから、
人生は輝く

今を生きる！

先人の言葉

オーストリアの音楽家であるモーツァルトの言葉。たとえかなわぬ夢であつても、日々の暮らしや気持ちにゆとりがあるからこそ見ることが出来る。それが夢だ。

【クジラアタマの王様】

「菓子に画びょう混入」というフェイクニュースにクレーム処理担当者として奔走する岸は、騒ぎの中で政治家とアイドルの青年と出会います。現実の世界を救うため、夢の中でチームとして戦うことになる3人。楽しく一気に読める一冊です。

